

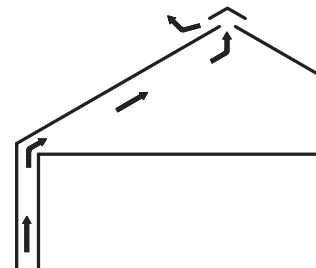
1-23 各部の基本納まり図

13) 軒天部(軒・けらばの出寸法がない場合)

①基本概念

- 軒やけらばの出が極めて少ない(通称:軒ゼロなど)納まりの場合、「軒天部の基本納まり」同様、まず小屋裏または屋根面からの排気をお考えください。

※耐火認定が必要な場合は、P72換気ガラリイーブプロテクターなどをご検討ください。



②部材を使用した納まり

- 躯体構造上小屋裏からの排気が困難な場合、部材を使用して外壁通気をとることができます。

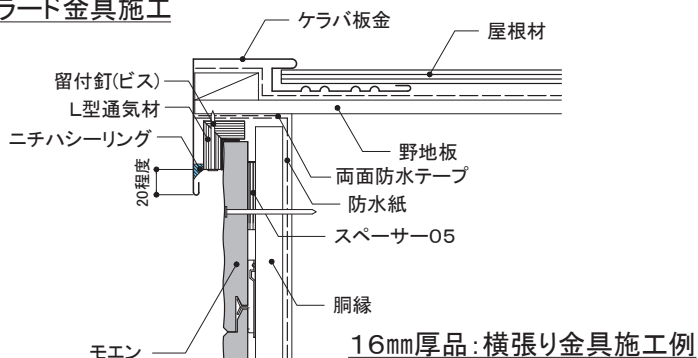


注意 軒天換気部材は、自治体によっては延焼のおそれがある部分での使用が認められない場合があります。また地域により開口面積について、通気抵抗係数などにより制限される場合があります。各自治体の建築主事や指定確認検査機関などにご確認ください。

■L型通気材

- 防水紙、胴縁を施工します。防水紙の張り終わり部分は、両面防水テープで防水処理をします。
 - L型通気材に付いている両面テープの剥離紙を剥がし、EPDMが付いている面を下向きにして、L型通気材を取り付けます。L型通気材は釘、またはビスで500mm以下の間隔で留め付けてください。(ケラバ板金工事が先行している場合は野地板に留め付けます。)この際、L型通気材と胴縁の間はモエンが入る程度の隙間をあけておいてください。
 - モエンを施工します。最上段のモエンはL型通気材の奥まで差し込んだ後、下げながら施工します。モエンを施工後、L型通気材とモエンの隙間が大きい場合はシーリング処理します。
- ※切り妻屋根の妻面などの傾斜のある部分で使用される場合、モエン表面とL型通気材との隙間を10mm程度確保してください。隙間が狭すぎると、上手く施工できないおそれがあります。モエン施工後は、L型通気材とモエンの隙間をシーリング処理してください。

納まり例:エクセラード金具施工



施工手順

